

指標

道内医師の日医入会率と その向上に向けて

副会長
すずき のぶかず
鈴木 伸和

はじめに

ご承知のとおり医師会は行政と同様に三層構造になっています。同じ医師会という組織でもそれぞれの役割があり、その仕事の内容も当然違ってきます。実際に札幌市医師会（以下、札幌医）執行部から北海道医師会（以下、道医）執行部の一員となった筆者にとっては、その違いを肌で感じている日々です。

三層構造の最上部組織である日本医師会（以下、日医）は昨年12月1日現在の会員数が17万3,895人となり9年連続増加したことを公表しました。日医は私たち医師の代表であり、わが国の医療の総まとめの団体として国民医療の立場で医療に係る法案の整備や施策の具体化を行っており、その立場をより強固にするために医師の組織率を高めることはとても重要であり会員数の増加はとても喜ばしいことです。

その一方で同時期の道医の日医会員数は5,797人と過去10年で最も少なくなりました。北海道における日医の会員数の減少については、深澤雅

指標のポイント



三層構造を形成している医師会において北海道の医師の都市医師会入会率は全国的に見てもかなり高い。それが道医そして日医への入会率となると全国と比べて低くなっている。道内都市医師会の日医入会率は全国で下から5番目という結果である。道内医師の日医入会率が上がればわが国の医療政策をリードしてゆく日医の大きな後押しとなることはもちろんのこと道医として日医内での発言力を高めることにもつながるわけであり、一人でも多くの北海道の医師が日医に入会していただくことが望まれる。

則前道医副会長が本誌第1234号（指標「医師会加入促進のために」）でも報告しており、会員の減少により日医代議員数が13人から12人に減少したことでそれに伴う北海道の発言力低下を危惧していますが、なんとかこの傾向に歯止めを利かせたいところです。そのためには道内医師が日医への入会を控える理由をしっかりと分析する必要があります。

日医の医師会組織強化検討委員会では昨年9月に令和2年度都道府県別医師会入会率を公表しています。ここではその資料を基に道内医師の医師会入会率を分析し、日医入会率の向上に向けての提案を行いたいと思います。

医師会の三層構造について

冒頭で述べたとおり医師会は行政と同じように市町村・都道府県・国が三層で役割分担をしています。行政と違って「郡市区医師会」「都道府県医師会」「日本医師会」はそれぞれ独立の組織として活動しています。それについては日医が医学生向けに発行している情報誌「DOCTOR-ASE（ドクターゼ）」でわかりやすく説明していますので、それを引用させていただきます。

DOCTOR-ASE（ドクターゼ）より引用

【行政の三層構造に合わせた役割分担】

さて、行政は市町村・都道府県・国の三層構造を基本としています。具体的に言うと、最も住民に近く、実際に行政サービスを実行する部分を市町村が行い、市町村が様々な取り組みをしやすく環境整備や、広域的な調整を必要とする取り組みについては都道府県が行い、法律や予算の大きな枠組み・ルールづくりは国が行っています。少しかみ砕いて、「飲酒運転を減少させるために厳罰化すること」を例に考えてみましょう。まず、こうした方針を立て、道路交通法を改正するのが「国」（国会）の仕事です。法律が改正されると、それを受けて、国の行政機関である警察庁が運用ルールを定め、各都道府県の警察本部に周知します。各都道府県の警察本部は、その周知を受け、市町村レベルで配置されている警察署に周知するとともに、広域的な取り締まりの計画を立てます。そして、実際に飲酒運転の検問を行ったり、事故処理の際の飲酒検知を徹底したりといった実務を行うのが、各市町村の警察署に所属する警察官…というわけです。医師会も行政と同様に、医療という公的サービスを支える組織として、国・都道府県・市町村（広域）の三層で役割分担をしています。すなわち、住民に最も近い市や郡のレベルで活動する「郡市区医師会」と、それらの活動を取りまとめる「都道府県医師会」、そして国の制度やルールへの働きかけを中心に活動する「日本医師会」の三層に分かれています。

【それぞれが独立した組織として活動】

ただし、医師会には行政の構造と大きく異なる点があります。それは、「郡市区医師会」「都道府県医師会」「日本医師会」が、それぞれ独立の組織であるという点です。というのも、医師会には、地域住民の生活エリアに沿って、その地域の医師が自発的に組織を作り、地域の医療体制を守ろうと活動してきたという歴史があります。つまり郡市区医師会は、日本医師会に「市や郡のレベルで医師会を作ってください」と指示されて作られた組織ではなく、医師自らが地域の医療に貢献したいと考え、組織的な医療提供体制を築いていくために、連帯する形でできた組織なのです。

【医療を支える車の両輪】

ですから、市民に一番近いところで医療の現場を担う郡市区医師会と各地の自治体（市町村）は、医療を支える車の両輪として密接に連携して活動しています。そのため、地域によって異なる健康問題や、医療提供体制の事情に応じて、郡市区医師会の活動内容は非常にバリエーションに富んだものとなっているのです。（中略）このように、「医師会」という組織は、行政と横の連携を取る形で三層構造を成してはいるのですが、実際は上意下達の組織ではなく、独自に活動する「郡市区医師会」「都道府県医師会」「日本医師会」という3つの組織が、縦の協力関係のネットワークで結ばれている…という構造になっていることを理解していただければと思います。（後略）

北海道の医師の医師会加入率について

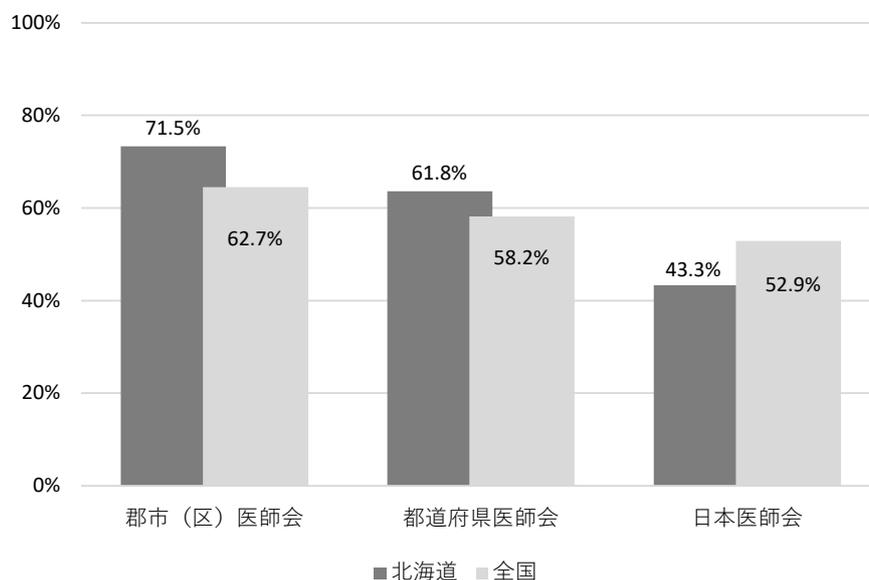
道医会員の日医会員数が少ないのは単に最上部組織である日医の加入率だけが低いからでしょうか。それとも医師会そのものの入会数が少ないのでしょうか。それを明らかにするために道内医師の三層それぞれの医師会の入会率を全国医師のそれと比較して検討してみました。図1は令和2年度の都道府県医師数を分母にして北海道と全国の三層それぞれの医師会の入会率を比較したものです。道内医師の郡市区医師会入会率は71.5%で、全国平均の62.7%を上回っています。都道府県医師会の入会率も61.8%で郡市区医師会ほどの開きはありませんが、まだ全国平均の58.2%を上回っています。これが日医入会率となると43.3%にまで低下し、全国の入会率52.9%と逆転してしまいます。

続いて郡市区医師会員数を分母にして北海道

と全国の都道府県医師会および日医の入会率を比較検討してみました（図2）。これをみると道医の入会率は86.5%で全国平均の入会率92.9%より低くなっていることがわかります。日医の入会率低下は更に如実となり、全国平均の郡市区医師会日医入会率が84.4%に対して本道の日医入会率は60.6%と大きく水を開けられています。つまり道内医師は、郡市区医師会入会率は高いけれどもその上部組織である道医そして日医の入会率が低いのです。

図3は令和2年度の都道府県内医師の郡市区等医師会入会率と郡市区等医師会員の日医入会率の散布図です。北海道の郡市区医師会の入会率は全国平均を上回っているものの日医入会率は極めて低いことが一目瞭然です。なんと全国で5番目に低いという衝撃的な結果でした。

図1 都道府県医師数を分母とした入会率（令和2年度）



※都道府県医師数は平成30年の統計を使用

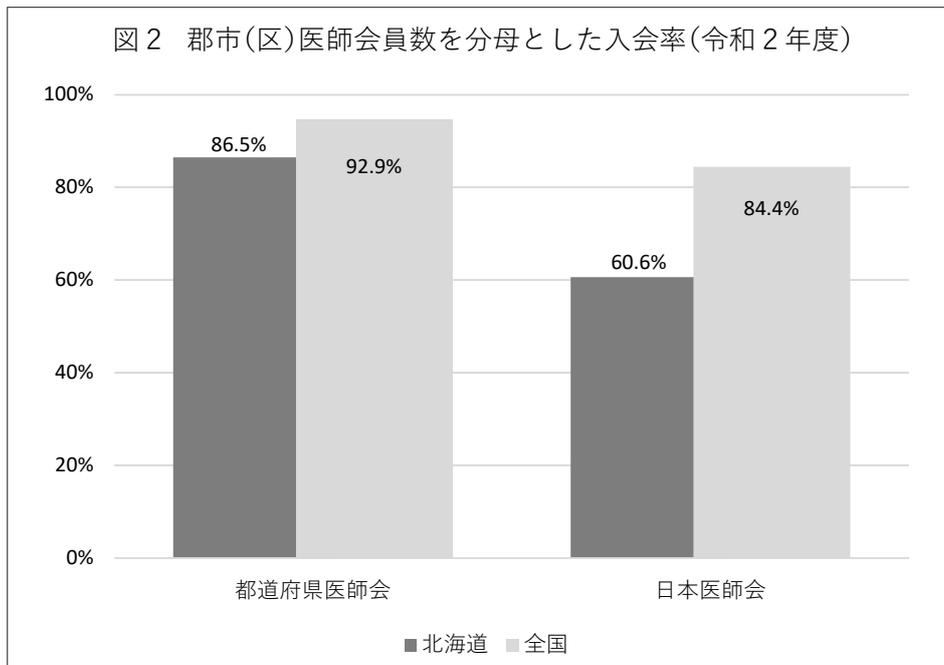
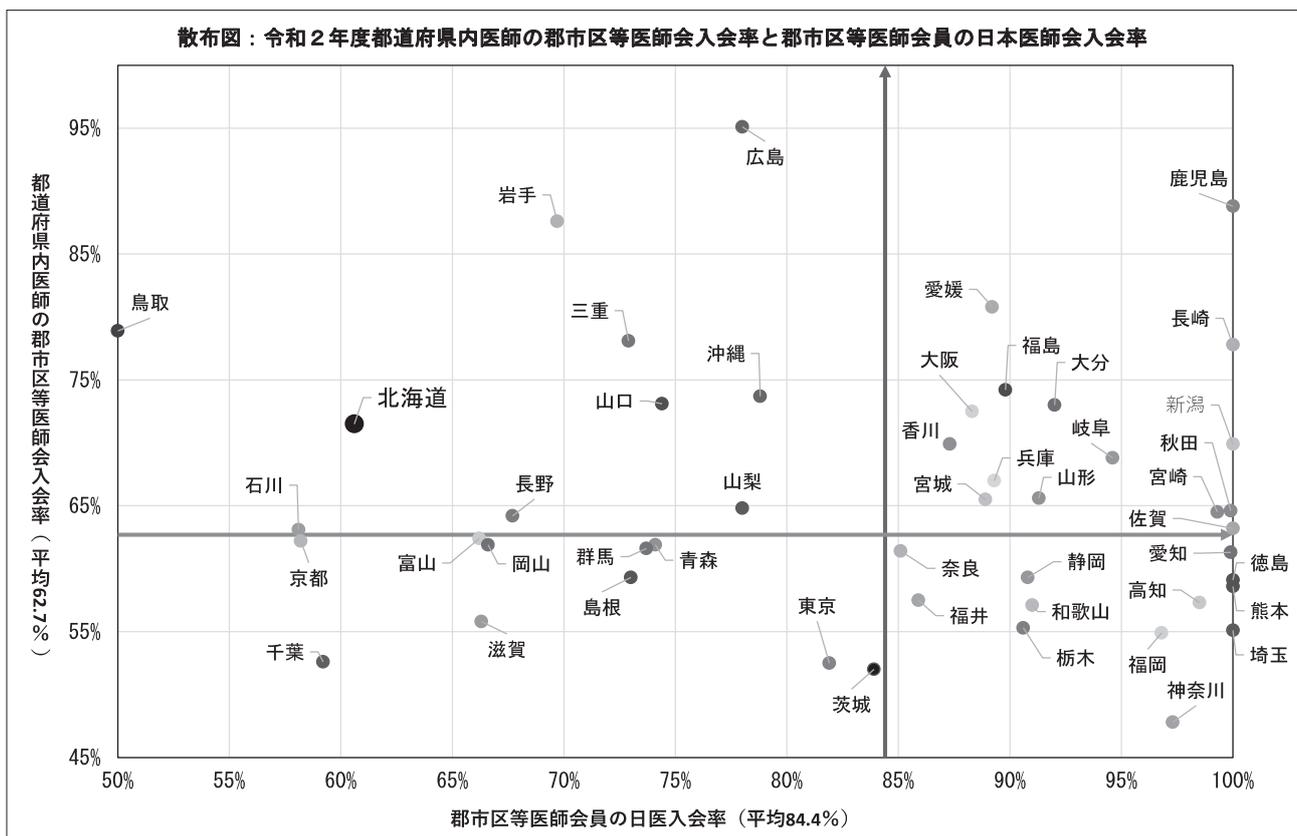


図3



出典：日本医師会「医師会組織強化検討委員会」令和2年度 都道府県別医師会入会率(令和3年9月)より引用し一部改変

日医入会率向上のためにできること

今回示された傾向、つまり北海道の医師は郡市医師会の入会率が高いものの、そこから上部組織への入会率が低いという結果はここ10年さほど変わっておりません。当会ではこれを打開すべく平成26年度に会員加入促進に関するプロジェクト委員会を立ち上げ、時限付きの会費減免や委員の記名入りで日医

入会の案内を送るなど様々な試みもしてみました。それでも入会率にほとんど変化は見られませんでした。私が所属している札医では事務局が入会時に医師としての権益を保有するためにも道医として日医に加入すべきと説明しています。また北海道医師国民健康保険に加入するためには道医の会員でなければならないこと、日医A会員になると自動的に

日医の医師賠償責任保険に加入となることなども伝えて、重ねて入会するよう促しています。にもかかわらず加入率はさほど改善していません。確かに札幌医に入会しているだけで地域の医療を守るための様々な医師会活動に参加でき、札幌独自の医師賠償責任保険やグループ保険、その他様々な福利厚生が充実しているので上部機関への入会の意義を見出すのは難しいのかもしれませんが。

ただここでこれ以上はもう望めないと諦めてしまっただけでは元も子もありません。わが国の様々な医療政策の提言を行う日医が私たち医師の代表であることを国民にそして政財界の方々に広く知らしめるためにも組織率を少しでも高くしなければいけません。

まずは今まで以上に郡市医師会入会時に道医そして日医までの入会の必要性を丁寧に訴えなければいけません。そのためには郡市医師会事務局担当者を支える体制作りが必要です。日医入会を促すパンフレットを作成して活用していただくの一案でしょう。またこれまで以上に道医事務局と郡市医師会事

務局が連携をとることも望まれます。更に図3に示した日医入会率100%近くを誇る他の都府県医師会の事務局がどのように対応しているか詳細に情報収集をしてそれを北海道に活用することも有用と思われます。

新規入会時にだけ力を入れるのは片手落ちです。すでに郡市医師会のみに入会している会員の人たちにも改めて道医・日医入会を検討していただく働きかけも大切です。例えば各郡市医師会のイベントの際には繰り返し日医の活動とその意義そして入会率の高さがその大きな後押しになること、にもかかわらずそれに反する北海道のこの現状を広報していただくというのはいかがでしょうか。

郡市医師会会員への働きかけのお話をしましたが、道医会員で日医未入会の方が3割いることも忘れてはいけません。該当する先生はぜひこの機会に日医入会をご検討ください。連絡先は次のとおりです。多くの先生方からのご連絡を心よりお待ちしております。

【入会連絡先】

所属の郡市・医育機関医師会

札幌市医師会 011-611-4181

ほか46医師会

[ご不明の場合は]

北海道医師会総務課

e-mail (soumu@m.douji.jp) または電話 (011-231-1433) までご連絡ください。

新型コロナウイルス感染症関連情報

新型コロナウイルス感染症に関する日本医師会からの通知等は、北海道医師会ホームページ「医師の皆様へー感染症情報」に掲載しています。

URL : <http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/infection.html>